

## 博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	米澤 雅美
論文題目	下毛野の首長と埴輪 —古墳時代地域形成過程の研究—
<p>審査要旨</p> <p>本論文は、下毛野地域を対象にして古墳と埴輪をとりあげ、古墳時代から律令制の成立前までの地域形成過程を明らかにしようとした意欲的な論文である。</p> <p>序章で、対象地を後に律令制で下野国となる地域に限定し、政治的な動向を反映しやすい古墳と埴輪をとり扱い、首長層の動向を明らかにし、地域形成過程を復元する方法と資料について述べる。このために思川や姿川、田川、鬼怒川、小貝川などの水系ごとに、古墳の分布する都賀郡、寒川郡、河内郡、芳賀郡を主要な対象地域として取り上げるという。当該地域の変遷過程を明らかにすれば、古代日本の地域形成過程復原の一助になるとみている。</p> <p>第1章では古墳時代中期に下毛野に広域的な領域を地盤とした大首長が現れる。第1段階の塚山古墳と第2段階の塚山西古墳などの塚山系円筒埴輪からは、古墳時代中期の様相が明確になり、大阪府生駒山西麓の埴輪と近似し、古市古墳群との関連が指摘できるという。しかし一代かぎりでの次の首長権は異なる系譜の首長に受け継がれて同じ地域で首長世代が連続しては引き継がれないとみている。第3段階になると摩利支天塚古墳の系列に代わり、第4段階には琵琶塚古墳の首長系列にとって代わられて、埴輪生産体制も塚山系埴輪の系譜が解体され新たに再編成されたとみなしている。この時期には後の下野国につながるような明確な政治的統合は、いまだに認められないという。</p> <p>第2章では、下毛野南部の首長と大型の鶴巻山古墳を含む寒川古墳群と埴輪とについてふれ、独自の勢力圏をもち、葦石をもつ畿内の墓制を取り入れ、大和王権と特別なつながりを示すとみている。一方で塚山古墳、塚山西古墳、塚山南古墳をもつ塚山古墳群は三代続けて大型古墳を築造している。この時期は当地域の首長層が大和王権と直接的な関係をもち、塚山系古墳も併存し、下毛野は重層的な社会構造であったと指摘している。このために下毛野地域全体の統合は進まなかったとみなしている。そしてこれまで大型古墳が築造されていなかった地域に摩利支天塚古墳が築造される。この古墳は埼玉県稲荷山古墳や群馬県井出二子山古墳などとともに、畿内大和王権との密接な関わりが指摘されている。新しい序列秩序を持つ大首長が現れ、地域の首長層に大きな変化が起きている。大和王権と地域首長の全国的な関係変化に、地域の中小首長層も連動して変化していた事実を示しているのである。</p> <p>第3章では、下毛野の埴輪供給体制の変化を埴輪窯と大型首長墓出土の埴輪から追求している。近隣地域では、古墳時代の中期末から後期初頭にかけて、地域内の拠点となる埴輪生産窯が築造されるが、下毛野では実態が良くつかめていない。琵琶塚古墳や御蔵山古墳、上神主狐塚古墳の埴輪を検討し、下毛野には6世紀前半には地域の中心となるような拠点的埴輪窯は存在していなかった可能性が高いとしている。</p> <p>古墳時代後期後葉の埴輪生産と埴輪供給状況を確認、唐沢山埴輪窯は拠点的埴輪窯で、飯塚埴輪窯は吾妻古墳の造営にあたって操業した衛星的埴輪窯と位置付けている。拠点的埴輪窯を中心として、衛星的埴輪窯が存在するのは、群馬県や埼玉県などにも認められる現象であるという。後の下野国造を生んだ下毛野中心部の大型首長墓の富士山古墳や甲塚古墳の埴輪を検討している。これらは唐沢山埴輪窯との間に強いつながりや系譜関係が存在している。大型首長墓は、墳丘と主体部の共通性で「下野型古墳」とも呼ばれるが、埴輪にも共通性が認められるという。いっぽう常陸地域産の埴輪も供給され、後の下野国領域よりも広い範囲からも遠隔地供給がおこなわれている。この段階で初めて下野国の元となる地域が形成されはじめ、他地域との交流がおこなわれ、後につながる地域区分が成立していくとみている。</p> <p>第4章では河内郡から鬼怒川を東に越えた芳賀地域について検討している。胎土には地元産と筑波山地産の例とがあり、鬼怒川以西の変遷とは異なっている。後期になると後の下野国を超えた範囲で東西南北の地域間交流が</p>	

見て取れるという。亀山大塚古墳の時期から下毛野中心部で地域的統合がはじまり、強い関係性が窺え、下野国につながる範囲内に芳賀地域、塩谷地域も加わっていくという。この統合は大首長同士の結びつきで一代限りではなく、数世代にわたって維持される。点と線とのつながりであった領域形成が面的な広がり拡大したと指摘している。下毛野の大首長は、畿内大和王権とのつながりだけでなく、上毛野や北武蔵とも密接な交流をもち、関東地方全体の変化とも連動していた。こうして都賀地域が下毛野地域の中心となっていくのである。鬼怒川を挟んだ東西地域の統合は、首長層の政治的動向に基づいて確立されたという。そのご下毛野で埴輪祭祀が行われなくなった後も、都賀地域の首長を中心として下毛野地域の統合は安定的に維持されていく。この地域的統合を基盤として、国造の下毛野氏が現れ、後の下野国につながる下毛野の範囲ができあがっていくとしている。

第5章は、1章から4章までの検討結果を整理し、的確に結論としてまとめ上げている。

古墳時代中期、下毛野に広域を地盤とした大首長があらわれる。河内地域の大首長は、畿内の大和王権と直接的な関係を持ち、畿内の古墳築造規範を導入した。大首長は地域内の中・小首長に影響力を及ぼしていた。しかし大首長は一代限りで次世代の首長権は異なる系譜の首長に受け継がれる不安定なものであった。中・小首長との関係も一代ごとの繋がり、領域形成は点と線とで結ばれる一代かぎりの関係であった。領域外には大和王権と直接的に繋がる首長も存在していて、首長層の支配領域は重層的であった。古墳時代中期には明確な政治的統合はいまだ認められない。古墳時代後期後半になって都賀地域の大首長同士が政治的に結びつくようになる。しかも数世代にわたって関係が保たれ、面的な広がり拡大し、都賀地域が下毛野地域の中心となっていく。鬼怒川を越えた芳賀地域の首長とも結びつきを強めていく。

下毛野で埴輪祭祀が行われなくなった後も都賀地域の大首長を中心にして、下毛野地域の統合は維持されていく。この地域的統合を基盤として国造・下毛野氏が現れ、後の下野国に繋がる下毛野の範囲が出来上がっていくと結論づけている。

上記のように本論文は、栃木県内の資料を丹念に調査し、近接する関東諸県の考古資料にも目を配り、正確かつ丁寧に分析を行っている。一部に資料不足で首長関係の比定が不十分な地域が残るが、将来の資料の蓄積によって補われよう。

以上のように本論文は、博士(文学)の学位に値する内容であると審査員一同が判断した。

公開審査会開催日	2013 年 3 月 28 日		
審査委員資格	所属機関名称・資格	博士学位名称	氏 名
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・前教授		岡内 三眞
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授		高橋 龍三郎
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	博士(文学)早稲田大学	川尻 秋生